

1 . 研究助成事業の概要

まず、今日までの申請と助成の件数、助成を受けた研究者の役職・年齢や所属研究機関、研究テーマの内容・分野等の観点から分析してみることとする。

1 . 1 申請 - 助成件数の推移

当財団は、研究助成事業として大学や各種試験研究機関が行う研究活動に対する助成を、財団設立（昭和 58 年 12 月 21 日）の翌年以来毎年実施している。

2 月末日を締切日として申請を受け、これらに対し審査委員による事前審査を実施し、その集計結果を基に審査委員会で討議・選考して 5 月下旬に助成金を支給している。

申請 - 助成件数の推移を表 1.1.1 に示す。

20 回までの応募総数=955 件/総助成件数=232 件、競争率=4.12 倍であり、最近は競争率が上がっている。（前回報告の 15 回までの競争率は 3.58 倍）

ちなみに 16～20 回は応募総数=296 件/総助成件数 48 件、競争率=6.17 倍という高率である。助成金額は平均して 1 件 97 万円と変わらない。（前回報告も 97 万円）

回数	年度	申請		助成	
		件数	大学数	件数	大学数
1	S59	10	7	7	5
2	S60	25	18	11	9
3	S61	46	23	12	9
4	S62	54	31	11	9
5	S63	47	33	14	10
6	H1	49	32	14	11
7	H2	41	32	14	14
8	H3	52	33	13	10
9	H4	50	32	13	11
10	H5	43	31	12	11
11	H6	52	39	12	11
12	H7	41	30	14	13
13	H8	55	42	13	9
14	H9	59	42	13	10
15	H10	35	27	11	11
16	H11	55	37	10	9
17	H12	55	41	10	9
18	H13	62	40	10	9
19	H14	73	50	10	10
20	H15	51	39	8	7
合計		955	-	232	-

表 1.1.1 申請 - 助成件数の推移

助成年度終了後には、助成対象となった研究テーマ（以下“助成テーマ”）の成果について助成対象となった研究者（以下“助成対象者”）からの結果報告をとりまとめ、7月に「助成研究成果報告概要」を発行して全国の主要な図書館・大学等に配布している。

助成テーマ一覧については当財団の機関誌「サウンド」の巻末に掲載したり、財団ホームページ <http://www.sound-zaidan.com> から配信している。助成研究成果報告概要は平成元年度分からはホームページからダウンロードが可能になっている。

1.2 助成対象者の推移

助成対象者の推移を表 1.2.1 に示す。

回数	年度	男	女	平均年齢	教授	助教授	講師	助手	研究員他
1	S59	7	0	47.0	3	2	0	2	0
2	S60	11	0	51.0	8	3	0	0	0
3	S61	12	0	44.1	7	3	0	2	0
4	S62	11	0	48.3	5	5	0	1	0
5	S63	14	0	46.0	7	5	0	2	0
6	H1	14	0	43.6	5	8	0	1	0
7	H2	14	0	43.6	4	5	3	2	0
8	H3	11	2	38.9	2	4	0	6	1
9	H4	11	2	44.1	5	5	2	0	1
10	H5	12	0	44.8	5	4	2	1	0
11	H6	12	0	46.8	7	4	0	0	1
12	H7	12	2	43.6	4	4	1	4	1
13	H8	13	0	41.9	4	6	0	3	0
14	H9	12	1	42.9	4	3	0	6	0
15	H10	11	0	42.1	5	2	0	3	1
16	H11	10	0	47.2	6	2	2	0	0
17	H12	9	1	46.4	3	3	1	1	2
18	H13	10	0	42.8	3	2	2	2	1
19	H14	9	1	42.3	3	3	1	2	1
20	H15	7	1	42.4	3	2	1	2	0
合計		222	10	44.4 (平均)	93	75	15	40	9

年齢・役職は研究助成の申請書応募時のもの

表 1.2.1 助成対象者の男女別、平均年齢、役職別の推移

平均年齢は 44.4 歳であり、前回報告と同じであった。役職別は講師+助手+研究員他=64 人を考慮すれば図 1.2.1A の様な構成になり、前回報告より教授=-1%、助教授=-2%と減じたの

に比べて講師+助手+研究員他=+3%と高くなった。図 1.2.1.B から分る様に講師と研究員他の活躍が目立つ。

役職別平均年齢は表 1.2.2 の様になっている。前回報告と比べて教授と助教授が+0.2、講師+助手+研究員他は+0.1 と変化は少ない。

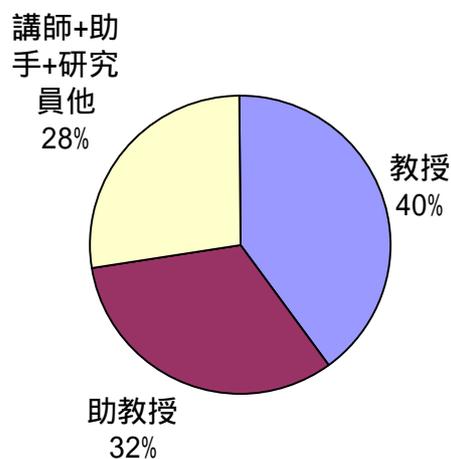


図 1.2.1A 役職別の構成比率

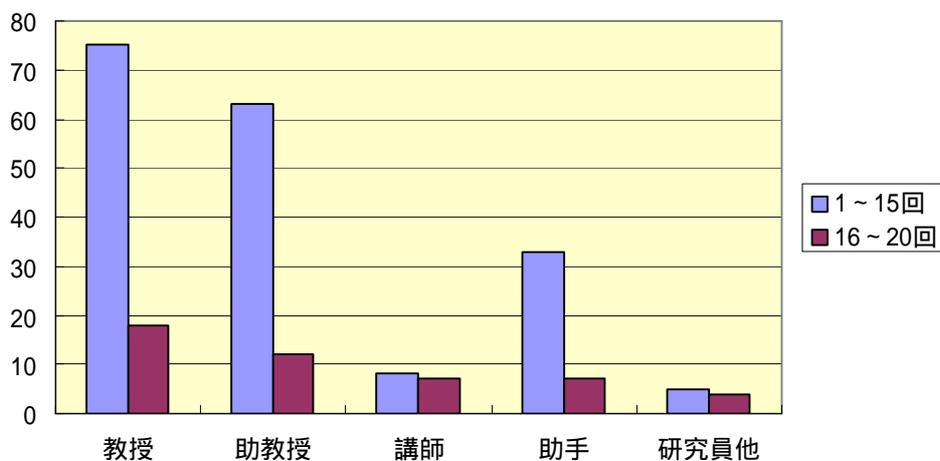


図 1.2.1B 役職別の増加比較

教授	助教授	講師+助手+研究員他
52.6	41.6	35.7

表 1.2.2 役職別平均年齢

1.3 研究機関別の助成件数

表 1.3.1 に研究機関別の申請 - 助成件数を助成件数の多い順に示す。全体で 85 機関に及んでいる。前回報告が 68 機関であるから新たに 17 機関（* 印）が加わったことになる。

研究機関	申請	助成	研究機関	申請	助成	研究機関	申請	助成
東北大学	76	27	広島大学	8	2	東京都立科学技術大 *	2	1
東京大学	52	19	工学院大学	7	2	成蹊大学	2	1
京都大学	43	13	長岡技術科学大学	6	2	横浜市立大学	2	1
九州芸術工科大学	30	12	長崎大学	6	2	横浜国立大学	2	1
東京工業大学	22	8	北里大学	4	2	東海大学 *	2	1
大阪大学	27	7	愛知教育大学	4	2	岡山大学 *	2	1
北海道大学	23	7	福井大学	2	2	徳島大学	2	1
豊橋技術科学大学	20	6	龍谷大学	2	2	State Univ. of N.Y.	2	1
東京農工大学	15	6	名古屋工業大学	11	1	理化学研究所	1	1
筑波大学	21	5	室蘭工業大学	9	1	国際武道大学	1	1
早稲田大学	10	5	埼玉大学	9	1	千葉工業大学	1	1
千葉大学	14	4	大阪府立大学	9	1	警察庁 *	1	1
静岡大学	14	4	岐阜大学 *	7	1	東京芸術大学	1	1
九州大学	13	4	京都工芸繊維大学	7	1	日本海がく協議会 *	1	1
東京医科歯科大学	8	4	関西大学 *	6	1	神奈川歯科大学	1	1
山形大学	32	3	岩手大学 *	5	1	帝京科学大学	1	1
信州大学	27	3	芝浦工業大学 *	5	1	長野工業高専学校	1	1
神戸大学	20	3	京都市立芸術大学	5	1	浜松職能開短大学校	1	1
金沢大学	18	3	鹿児島大学	5	1	桃山学院大学	1	1
山梨大学	16	3	名城大学 *	4	1	大阪電気通信大学	1	1
熊本大学	15	3	滋賀医科大学	4	1	岡山県立大学 *	1	1
慶応義塾大学	9	3	京都府立大学	4	1	香川大学 *	1	1
東京電機大学	6	3	拓殖大学	3	1	福岡大学	1	1
新潟大学	5	3	国立音楽大学	3	1	九州東海大学	1	1
電気通信大学	15	2	姫路工業大学 *	3	1	New York Univ.	1	1
山口大学	14	2	宮崎医科大学 *	3	1	フランス国立科学研究センター*	1	1
名古屋大学	10	2	東洋大学	2	1	ホースト大学 *	1	1
宇都宮大学	8	2	千葉県立中央博物館	2	1	合計	773	232
浜松医科大学 *	8	2	東京学芸大学	2	1			

助成対象が決定した時に助成対象者が所属していた研究機関を基に作成

表 1.3.1 研究機関別の申請 - 助成件数

図 1.3.1 は申請件数の多い順に上位 25 位をグラフ化したものである。

更に図 1.3.2 は前回報告以後 16 ~ 20 回で助成件数が 2 以上増加した研究機関である。特に、筑波大学は 1 件から 5 件に躍進している。

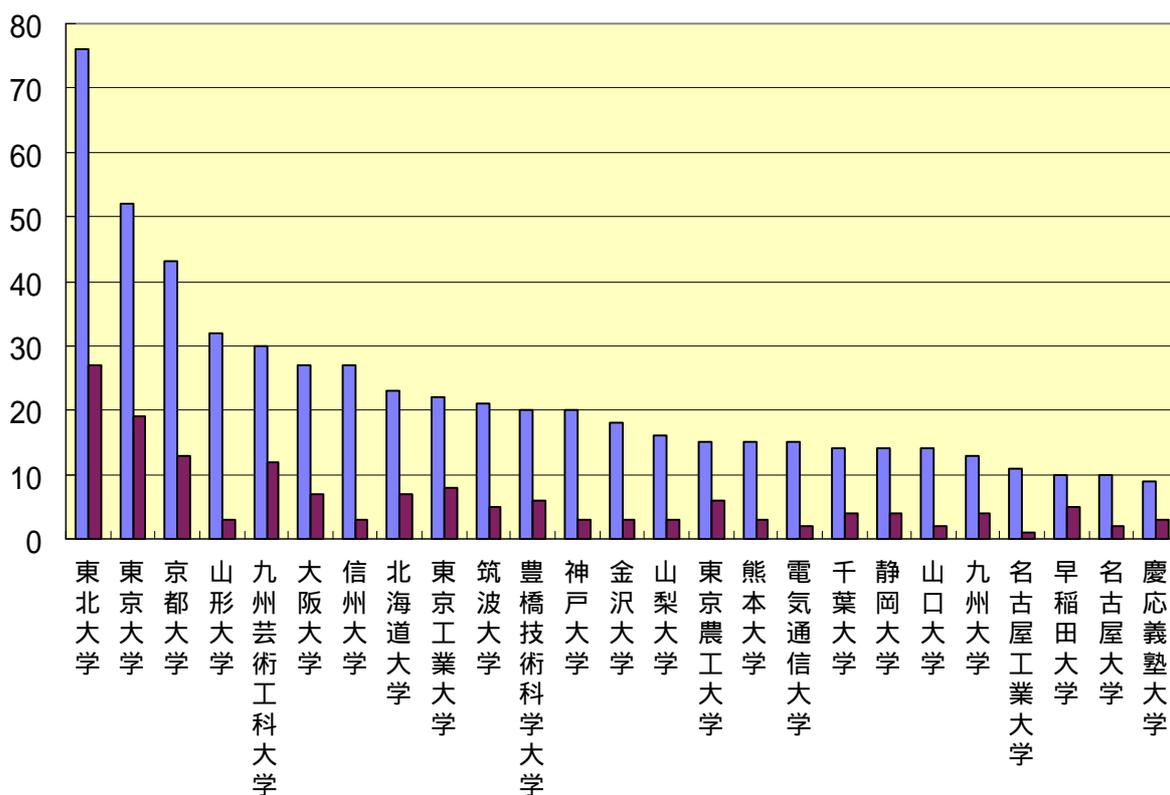


図 1.3.1 申請件数上位 25 位 (左：申請件数 右：助成件数)

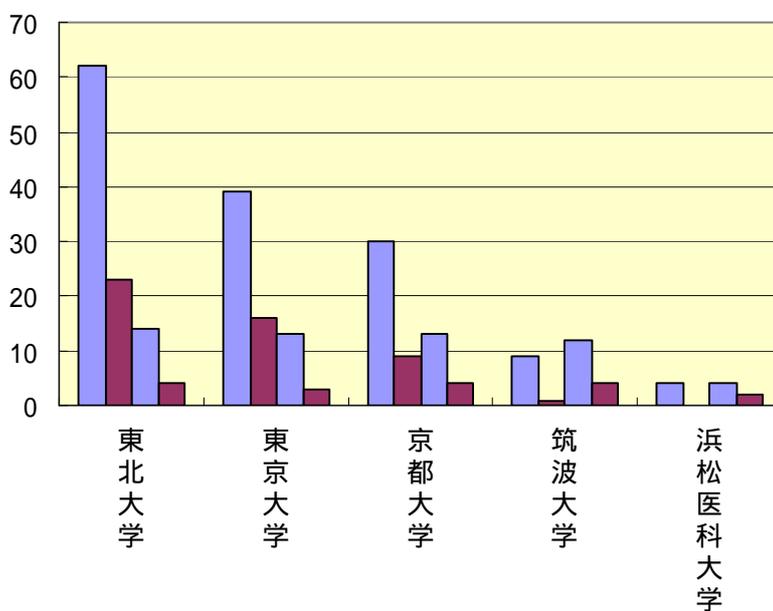


図 1.3.2 16～20回で助成件数が2以上増えた研究機関
左半分 1～15回、右半分 16～20回
(いずれも左：申請件数 右：助成件数)

1.4 申請テーマ・助成テーマの分類

申請されてきた研究テーマ（以下“申請テーマ”）は、財団事務局で分野別に分類される。分類に関しては、1回/昭和59年から6回/平成元年（分類のための過渡期）及び7回/平成2年以降に大別できる。

昭和59年から平成元年については重複するので前回報告の6ページをご覧ください。

前回報告でも分類が固まった7回/平成2年以降に関して種々考察しているのですが、本報告でもそれに従う。

申請テーマの分類別の件数を表1.4.1に、その累計グラフを図1.4.1に示す。

回数 年度	7 H2	8 H3	9 H4	10 H5	11 H6	12 H7	13 H8	14 H9	15 H10	16 H11	17 H12	18 H13	19 H14	20 H15	合計
A 音声	4	6	5	3	3	5	5	7	3	5	7	8	4	5	70
B 騒音	10	9	6	7	7	5	9	11	4	7	1	7	9	4	96
C 生体	7	5	7	10	14	7	12	9	5	6	10	8	10	8	118
D 音楽	7	7	4	4	3	4	4	8	4	9	5	9	13	8	89
E 音響	2	13	12	5	13	14	8	11	6	8	12	16	18	17	155
F 超音波	6	8	8	5	4	3	6	5	8	10	12	7	9	6	97
G その他	5	4	8	9	8	3	11	8	5	10	8	7	10	3	99
合計	41	52	50	43	52	41	55	59	35	55	55	62	73	51	724

表 1.4.1 申請テーマの分類件数の推移

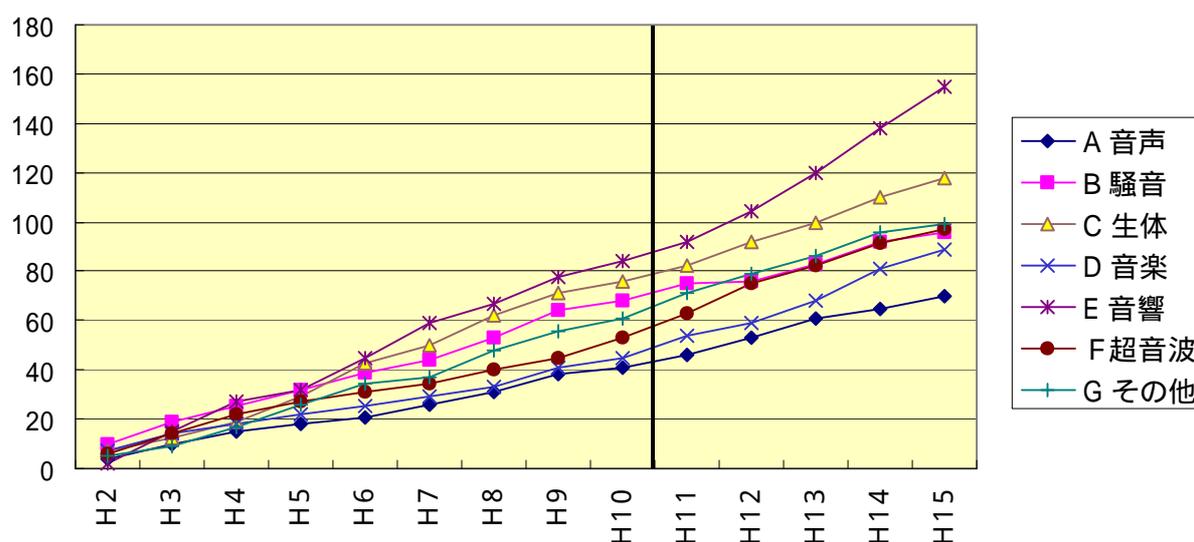


図 1.4.1 申請テーマの分類件数の累計

E 音響に続いて C 生体が健闘している。科研費は研究職対象であり医療職である医師は申

請者になれないので勢い民間助成へ進出してくるとも考えられる。B 騒音の落ち込みが目立つが、騒音関係の研究者は比較的限定されていることもあり、前回報告で助成採択率が2割と低かった流れが影響しているとも考えられる。

助成テーマの分類別の件数を表 1.4.2 に、その累計グラフを図 1.4.2 に示す。

回数	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	合計	
年度	H2	H3	H4	H5	H6	H7	H8	H9	H10	H11	H12	H13	H14	H15		
A 音声	2	2	1	1	1	2	4	2	1	1	1	1		1	20	
B 騒音	2	3		2	2	1	1	2	1	1		1	1		17	
C 生体	4	2	5	3	3	1	1	2	2	2	2	2	1	3	2	33
D 音楽	1	1	1	1	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	24
E 音響	1	1	2	2	2	4	2	2	2	1	1	4	3	3	30	
F 超音波	2	4	2	2	2	3	1	1	2	2	2		1		24	
G その他	2		2	1		1	2	2	1	1	2	1			15	
合計	14	13	13	12	12	14	13	13	11	10	10	10	10	8	163	

表 1.4.2 助成テーマの分類件数の推移

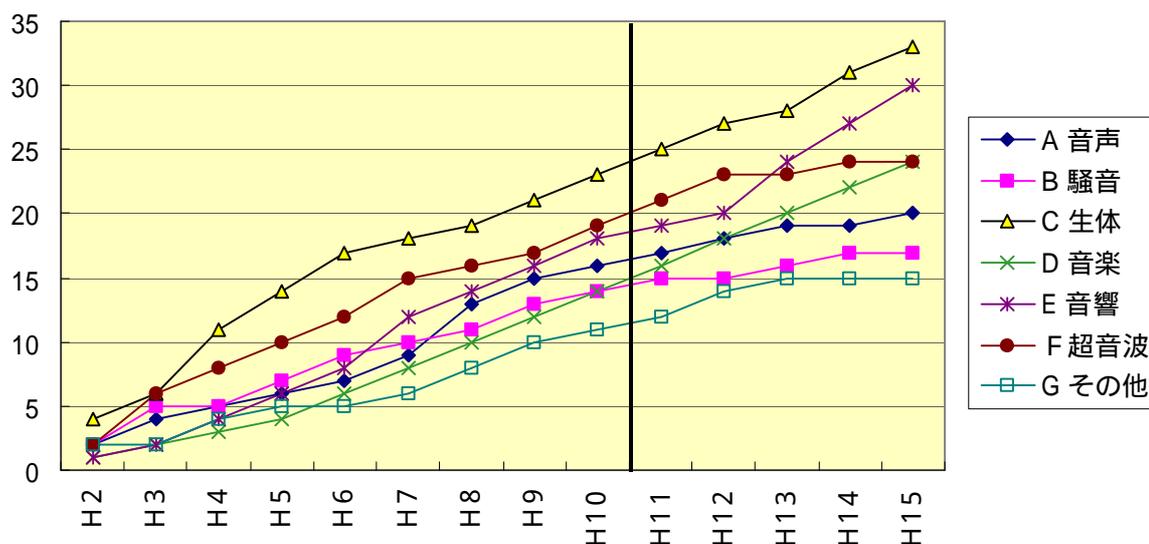


図 1.4.2 助成テーマの分類件数の累計

C 生体、E 音響、D 音楽が伸び、F 超音波、A 音声、B 騒音、G その他は頭打ち傾向にある。

次に、7～20回までの申請テーマと助成テーマの分布をグラフ化したのが図 1.4.3 と図 1.4.4 である。前回報告 7～15 回（8 ページ参照）との相違はいずれも ±3% の範囲内であった。

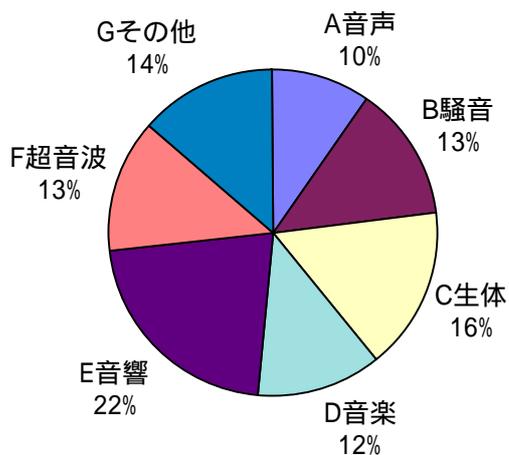


図 1.4.3 申請テーマの分布

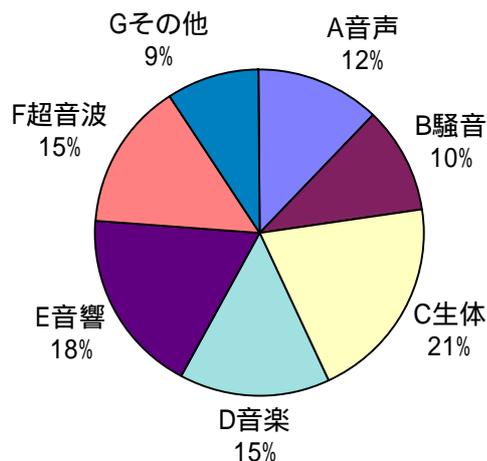


図 1.4.4 助成テーマの分布

分類	申請件数	助成件数	助成採択率 (%)
A 音声	70	20	28.6
B 騒音	96	17	17.7
C 生体	118	33	28.0
D 音楽	89	24	27.0
E 音響	155	30	19.4
F 超音波	97	24	24.7
G その他	99	15	15.2
合計	724	163	

表 1.4.3 分類別助成採択率

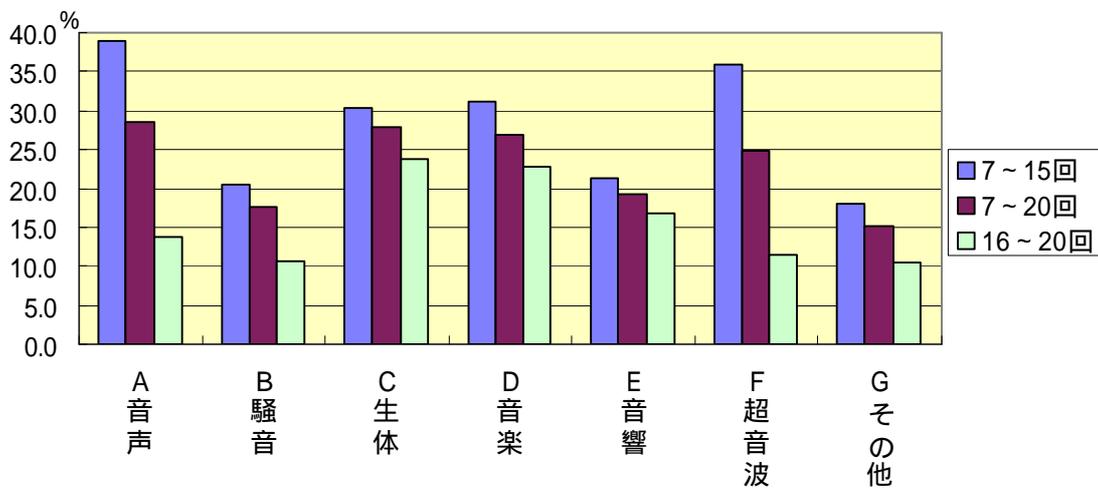


図 1.4.5 助成採択率の比較

7～20回までの助成採択率を表1.4.3に示し、前回報告7～15回と16～20回との比較を図1.4.5に示す。競争率が上がったので、全体的に採択率は下がっている。中でもA音声とF超音波の落ち込みが目立つ。

参考までに、図1.4.6に申請 - 助成の分類件数の累計対比グラフを示す。

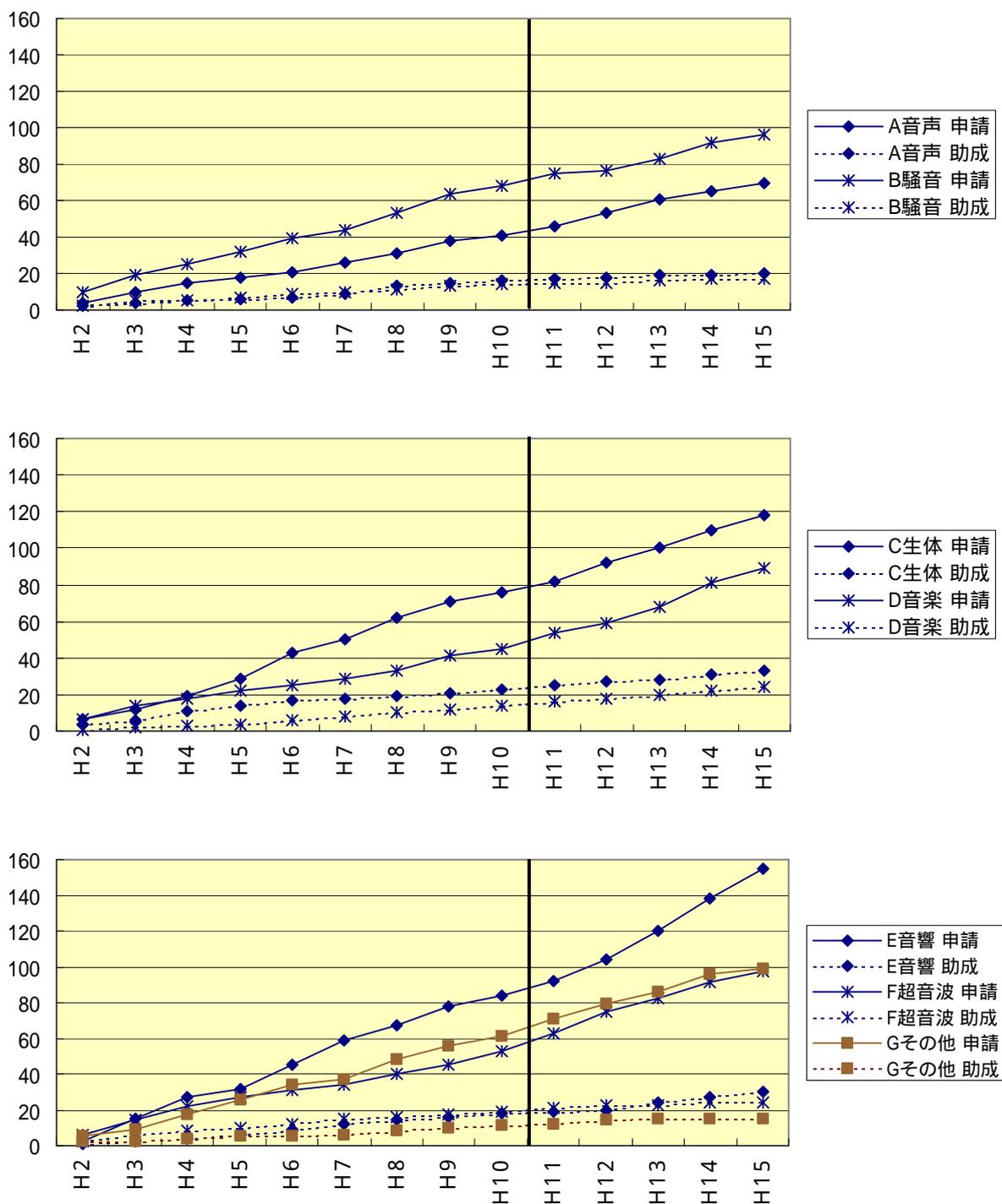


図 1.4.6 申請 - 助成の分類件数の累計対比